

③飛騨の里-3 飛騨の里・道上家

〈県指定〉昭和 50 年 7 月 17 日（旧所在地 飛騨市宮川町加賀沢・かがそ）

〈時代〉江戸時代末期

桁行 17.7 メートル、梁間 9.4 メートル、入母屋造、茅葺、北・南面下屋附属板葺

この家は、越中の国境いにあつて、宮川溪谷と越中西街道を隔てて富山県婦負（ねい）郡細入村の西加賀沢集落と相對している。

内部は平入りで、三室広間型を基本としている。「ドジ」に入ると右に「マヤ」、奥に「ニワ」がある。「ニワ」は屋内農作業の場で、板敷床になっている。「オエ」は、三間×四間半と広い。「オエ」の左横には仏壇のある「デイ」、エンのある「オクデイ」がある。中 2 階は養蚕と一部が居室になるが、人が頭を低くして歩ける程の高さである。

ケヤキ材の豊富なこともあり、太い柱、梁、桁は、幕府の御止木にもかかわらずケヤキを使用している。

内部構造は土地柄、越中の民家と共通性が強く、また外観は、茅葺の妻側を大きく切り取り、兜（かぶと）造りとしている。兜造りは中 2 階を明るくする民家形式で、山梨や関東など養蚕の盛んな地方に多く見られる。左右両側には、板葺の下屋を設け、左は懸崖造りとなっている。

昭和 45 年 10 月から翌年 3 月にかけて、民俗村へ移築された。また、昭和 59 年 10 月から翌年 3 月にかけて、建物全体のゆがみを修復するため、解体修理工事を行っている。